

第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人北見工業大学

1 全体評価

北見工業大学は「向学心を喚起し、創造性を育み、将来の夢を拓く教育」、「個性に輝き、知の世紀をリードし、地域特色のある研究」、「地域のニーズに応え、地域をリードし、地域の発展に貢献」、「国際的視野を踏まえた教育研究、学生・教職員の国際化を推進」を基本目標としている。第3期中期目標期間においては、学士課程では基礎教育を重視し、学科間の垣根を取り払い、より一層の個性化、高度化、グローバル化を推進するとともに、大学院課程では寒冷地域環境工学、エネルギー工学、工農、医工連携等実践的な教育研究を実施し、専門技術者、高度専門技術者を育成し社会的要請に応え社会で活躍できる人材を輩出すること等を目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

	顕著な成果	上回る成果	達成	おおむね達成	不十分	重大な改善
教育研究						
教育			○			
研究			○			
社会連携			○			
その他			○			
業務運営				○		
財務内容			○			
自己点検評価			○			
その他業務			○			

（教育研究等の質の向上）

学部生の勤労観、職業観を育成するとともに地域貢献への意識向上を図るため、地域密着型インターンシップを推奨するとともに、複数年インターンシップや学内インターンシップを推奨している。

（業務運営・財務内容等）

「教育」・「研究」・「大学運営に関連する学務貢献」及び「社会貢献及びその他」の4視点から各教員の諸活動を総合的に評価する教員評価制度について、教員の自律的な教育・研究活動を奨励し、モチベーションを向上させるため、各評価項目におけるエフォート率を固定値から一定の範囲内で教員自身が設定できるよう変更するとともに、各職層に求められる役割に応じた評価となるよう、職層別の評価に改正している。また、共同研究実績がある企業へのアンケート結果の分析や外部資金獲得に貢献した教員への報奨金の支給に加え、地元自治体から無償貸与された遊休公共施設（競馬場跡地）を実証実験フィールドとして、実物大の大型実験施設（屋根型林道実験設備等）を設置したことにより、共同研究数を増加させている。

07 北見工業大学

一方で、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」の項目2事項について、「中期計画を十分には実施していない」と認められることから、改善に向けた取組が求められる。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

<評価結果の概況>	顕著な 成果	上回る 成果	達成	おおむね 達成	不十分	重大な 改善事項
(I) 教育に関する目標			○			
①教育内容及び教育の成果		○				
②教育の実施体制			○			
③学生への支援			○			
④入学者選抜			○			
(II) 研究に関する目標			○			
①研究水準及び研究の成果			○			
②研究実施体制等の整備			○			
(III) 社会連携及び地域に関する 目標			○			
(IV) その他の目標			○			
①グローバル化			○			

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標(中項目)4項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(教育)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

07 北見工業大学

1-1-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「インターンシップの充実」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

情報科学概論演習について、大学（小樽商科大学・帯広畜産大学）経営統合後の連携教育プログラム及び数理データサイエンス教育プログラムと位置付けて実施している。また、Web上に設置している学習管理運営システムを活用したオンデマンド配信と、Webサービスによるプログラミング言語「Python演習システム（北海道大学数理データサイエンス教育研究センターとの連携）」を組み合わせることにより、パソコン演習室外における演習教育を可能としている。加えて、新型コロナウイルス感染症における状況下において、理解が不十分な学生を対象として、Webexを活用したライブ配信によるハンズオンセミナー的講義コマを設け、通常の対面授業と同様の成果が得られるようにしている。（中期計画1-1-1-1）

○ インターンシップの充実

学部生の勤労観、職業観を育成するとともに地域貢献への意識向上を図るため、地域密着型インターンシップを推奨するとともに、複数年インターンシップや学内インターンシップを推奨している。低年次学生からの参加も得られ、インターンシップ参加学生数は令和元年度末で202名となり、第2期中期目標期間の平均人数65名に対し、211%増加となっている。（中期計画1-1-1-2）

(特色ある点)

○ 学科改組と多様な技術者養成

伝統的工学分野に基づいた学科構成を転換し、幅広い工学基礎知識と、地域からグローバルの多次元に亘る多様な問題解決に取り組む能力を身につけた技術者を養成するため、平成29年度から工学部6学科を新たに地球環境工学科及び地域未来デザイン工学科の2学科8コースへ改組している。（中期計画1-1-1-4）

○ アクティブ・ラーニングの推進

学部生の主体的な学びと問題解決能力を養成するため、新カリキュラムにおいて、アクティブ・ラーニングを導入した科目を令和元年度で166科目実施しており、第2期中期目標期間の平均科目数87科目に対し、91%増となっている。（中期計画1-1-1-5）

1-2教育の実施体制等に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標を達成している

（理由） 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-2-1（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ オンラインによるFD活動

オンラインによるFD研修会を令和2年度は6回、令和3年度は7回実施している。2年間で複数名の外部講師を招へいして潜在能力活性化、地域活性化、SDGs、多様性、大学ブランド力とともに、オンライン授業の諸課題などについて討議し、教員がそれぞれ124名、127名参加し、教員参加率も88%、92%となっている。（中期計画1-2-1-1）

1-2-2（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ 高大連携の推進

体験的な学習プログラムに重点を置き、見たり触れたりすることで楽しみながら科学や工学を学ぶ「大学で学ぶサイエンス」では、4年間で延べ148名のオホーツク管内の高校生が参加している。また、高校生が大学の研究を学ぶ「遠軽高校講座」では、4年間で延べ40名が参加している。いずれの事業においてもアンケートでは、ほとんどが大変満足との回答であり、来年も是非参加したいとの回答や工学に興味を持ったとの回答も多数見られている。（中期計画1-2-2-1）

1-3学生への支援に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標を達成している

（理由） 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

07 北見工業大学

1-3-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-3-2 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 地元就職奨学金制度の設立

地域への就職率向上のため、地元企業に就職する場合のインセンティブとして地元就職奨学金制度を平成29年度に設立し、地元商工会議所と連携して周知した結果、地元企業28社から賛助企業となる旨申し出がなされている。パンフレットを作成し、学生に周知した結果、令和元年度に1名が制度を利用して就職している。(中期計画1-3-2-1)

1-4 入学者選抜に関する目標 (中項目)

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-4-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 総合型選抜の導入

令和2年度実施分から新たに導入する総合型選抜について、特色ある3枠(コース確定枠、第一次産業振興枠、冬季スポーツ枠)で学生募集を行うこととし、多様な能力を持つ受験者の資質を見極めるために学修計画書を求めることとするなど、具体的な選抜方法が決定されている。(中期計画1-4-1-1)

1-4-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2-1-1(小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 戦略に沿った重点研究分野の推進

地域社会の発展や世界に貢献できる研究開発を実施するため、特色ある重点研究分野を定め、4つの研究推進センター(環境・エネルギー研究推進センター、冬季スポーツ科学研究推進センター、オホーツク農林水産工学連携研究推進センター、地域と歩む防災研究センター)を設置し、学長裁量経費の優先的配分や研究スペースの優先的利用を図ることにより、戦略に沿った研究を計画的に推進する体制を整備・強化している。

(中期計画2-1-1-1、2-1-1-2)

○ 地域と歩む防災研究センターの設置

積雪寒冷地域における防災力向上に貢献する研究成果を社会還元するため、地域と歩む防災研究センターを令和元年5月に設置している。センターの前身である研究ユニットでは、平成28年北海道豪雨災害時の調査結果を学術論文としてまとめるとともに、平成30年北海道胆振東部地震時に素早く現地調査等を実施して調査結果を外部公表するなど、災害に対する社会的要請に適切に対応している。センター設置によって、地域社会の発展にさらに幅広く寄与することが期待されている。(中期計画2-1-1-1)

○ オホーツク農林水産工学連携研究推進センターの設置

日本でも有数の第一次産業地域である、北海道オホーツク地域の第一次産業支援に取り組むため、オホーツク農林水産工学連携研究推進センターを設置し、農業・林業・水産産業を工学的に支援することでオホーツク地域の持続可能な発展に寄与している。(中期計画2-1-1-2)

2-1-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 科研費申請の環境整備

科研費申請に対する支援を不採択者だけではなく、若手教員にも提供するため、外部委託による申請書添削の費用支援や、科研費の複数採択経験のある若手研究者による講演を開催するとともに、上位種目挑戦者に対して、大型の科研費獲得に繋げるための支援を行うことにより、挑戦しやすい環境を整備し、科研費獲得件数の増加、研究の量及び質の向上を図っている。(中期計画2-1-2-1)

2-1-3 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

2-2 研究実施体制等に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2-2-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

07 北見工業大学

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 地域貢献のための研究体制整備

北海道オホーツク地域の第一次産業関連組合（農業：14農協、林業：9森林組合、漁業：10漁協）とそれぞれ包括連携協定を締結し、地域社会の発展に貢献できる研究開発のための体制を整備している。(中期計画2-2-1-2)

○ 重点研究分野の外部評価

重点研究分野を推進する研究組織の成果に対して、学外有識者7名による外部評価委員会を組織し、書面及びヒアリングによる外部評価を実施している。評価結果は、各研究組織にフィードバックすることにより、研究推進体制の改善・充実に活用している。

(中期計画2-2-1-3)

(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

3-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 国際交流活動の拡大

社会貢献プログラムや外国人留学生による国際交流活動について、HP等による周知だけでなく、オホーツク地域18市町村を直接訪問してその活動を周知するとともに、地域のニーズを把握しそれに応えている。第3期中期目標期間の目標値128名に対し、令和元年度末時点での国際交流活動に参加した留学生の平均人数は210名となっている。(中期計画3-1-1-3)

○ 地域に向けた実践的教育の推進

学部カリキュラムにおいて、フィールドワーク等を活用して、地域の特色や自然環境保全と大学との関わりを理解し、地域の課題解決に貢献する人材育成を図ることを目的とした授業科目からなる実践的教育プログラムを設定し、地域の企業関係者、一次産業従事者、行政関係者などで組織される実践的教育プログラム評価外部委員会において、実践的教育プログラムの科目の認証、実施体制の評価・検証や、改善充実のための方策を検討している。(中期計画3-1-1-3)

07 北見工業大学

3-1-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 地域イベントへの積極的な参画

共催・後援等の制度そのものを地域に広く周知し、地域イベントへ積極的に参画することによって、共催・後援事業等の件数が、第2期中期目標期間における平均件数(25.6件)に対して第3期中期目標期間の数値目標である20%を超えて94%増加し、49.8件となっている。(中期計画3-1-2-1)

○ 地元企業との共同研究講座の設置

オホーツク農林水産工学連携研究推進センターが、地域の第一次産業資源を商品化している地元企業と、持続可能で効率的なハッカ栽培法やハッカ油の高品質な加工技術の開発によって、栽培から加工までの一連の研究成果をサービス・製品化することで、社会へ研究成果を還元することを目指して、共同研究講座を令和元年12月に設置している。(中期計画3-1-2-1)

(Ⅳ) その他の目標

(1) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

4-1 グローバル化に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

4-1-1（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ LINEによる海外体験共有の推進

海外派遣経験者のLINEグループを形成し、派遣を希望する学生がLINEグループに参加・質問等できる体制を構築するとともに、語学研修参加者等の体験内容を報告する文化・語学研修&留学報告会を実施している。また、北見工業大学の留学生、日本人学生と地域との交流イベント「インターナショナルCアワー」で、留学経験の体験談をまとめた書籍を出版した学生による留学体験発表を実施している。(中期計画4-1-1-2)

4-1-2（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

＜評価結果の概況＞	顕著な 成果	上回る 成果	達成	おおむね 達成	不十分	重大な 改善
(1) 業務運営の改善及び効率化				○		
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期目標をおおむね達成している

<p>(理由) 中期計画の記載9事項中7事項が「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるが、2事項について「中期計画を十分には実施していない」と認められること等を総合的に勘案したことによる。「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された計画(1事項)についてはプロセスや内容等も評価)</p>
--

(法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる事項)

<p>中期計画【30】及び【32】については、法人が掲げる目標が達成しておらず、また、達成されなかったことについて勘案すべき事情が認められないことから、「中期計画を十分には実施していない」と判断した。</p>
--

＜特記すべき点＞

(優れた点)

○ 地域に根ざした研究の実施体制の整備に関する取組

北海道オホーツク地域特有の自然現象が作り出す景観に着目し、潜在的な観光資源として発掘し、ブランド化と科学的アプローチによる発生予測を行う「特異な自然景観の発掘・予測研究ユニット」を令和3年3月に設置している。文部科学省データ統合・解析システム「DIAS」を情報基盤とし、モバイルSINETや広域・遠隔観測機器を活用して気象観測の空白域を埋めることにより、未だ明らかになっていない北海道オホーツク地域の気象・雪氷特性の把握と予測を行い、予測結果を観光だけでなく防災や交通、農業等にフィードバックすることにより、地域の経済活性化や安全に貢献することを目的としている。「DIAS」については、同大学の強みである「防災」分野に関して、情報共有プラットフォームの構築にも活用されている。

(改善すべき点)**○ 中期計画を十分には実施していないと認められる事項**

「若手教員の雇用に関する計画に基づき、退職金に係る運営費交付金の積算対象となる教員における若手教員の比率を平成33年度までに30%程度にする。」(中期計画【30】)については、重点研究分野の育成を考慮しながら卓越研究員事業なども活用して若手教員の採用促進に努めているものの、令和3年度末の若手教員の割合が19.1%となっており、中期計画を十分には実施していないと認められる。

○ 中期計画を十分には実施していないと認められる事項

「女性教員には、出産、育児などと教育研究が両立しやすいように研究補助者の配置、単身赴任手当の支給要件の緩和、特別休暇付与、キャリア形成のための相談や助言機会の充実など支援体制を強化し、全教員の10%程度になるよう採用する。」(中期計画【32】)については、ライフイベント期にある教員への支援に関する要項の制定、ライフイベント期にある教員や外国人教員に配慮した評価制度の導入、女性教員の上位職登用や女性研究者の裾野拡大に係る事業等を実施しているものの、令和3年度末の女性教員の割合が8.2%となっており、中期計画を十分には実施していないと認められる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載5事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>**(優れた点)****○ 研究体制の強化による外部資金比率(受託研究)の上昇**

最先端の冬季スポーツ科学に基づくトレーニング方法やカーリング競技の戦術開発への総合的な支援等を推進している冬季スポーツ科学研究推進センターをはじめとした重点研究分野を推進する4つの研究推進センターに対して、学長裁量経費を重点配分し研究設備の整備や分野横断型研究の推進など研究体制を強化したことにより、受託可能な研究テーマがこれまで以上に拡大しており、第3期中期目標期間における受託研究収入が約4億4,311万円(第2期中期目標期間は、約2億6,581万円)となり、外部資金比率(受託研究)は1.9%に上昇している。

07 北見工業大学

○ 外部資金獲得に関する取組

財団等からの助成金への応募件数の増加や、創立60周年記念事業に併せた修学支援基金の幅広い周知に取り組んだことにより、寄附金収入が大幅に伸びた。また、共同研究実績がある企業へのアンケート結果の分析や外部資金獲得に貢献した教員への報奨金の支給に加え、地元自治体から無償貸与された遊休公共施設（競馬場跡地）を実証実験フィールドとして、実物大の大型実験施設（屋根型林道実験設備等）を設置したことにより、第3期中期目標期間における共同研究の平均件数は114件、奨学寄附金の平均件数は86件となり、第2期の平均に比してそれぞれ約1.4倍増加している。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期目標を達成している

（理由） 中期計画の記載3事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

（優れた点）

○ 教員評価制度の見直しに関する取組

「教育」・「研究」・「大学運営に関連する学務貢献」及び「社会貢献及びその他」の4視点から各教員の諸活動を総合的に評価する教員評価制度について、教員の自律的な教育・研究活動を奨励し、モチベーションを向上させるため、各評価項目におけるエフォート率を固定値から一定の範囲内で教員自身が設定できるよう変更するとともに、各職層に求められる役割に応じた評価となるよう、職層別の評価に改正している。令和3年度においては、評価結果を教育研究費の配分（評価結果による加算額：約3,400万円）や給与・業績年俸等の処遇（評価結果に基づく支給額：約1億6,200万円）に反映させている。

（4）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】中期目標を達成している

（理由） 中期計画の記載10事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。